

新規結核菌抗原とDNAアジュバントを用いた成人肺結核に対するブースターワクチンの開発



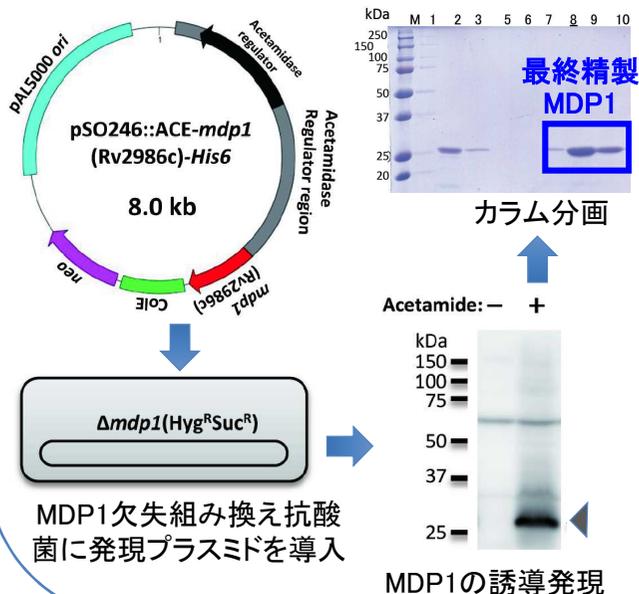
- 期待される成果
年間900万人の発症と150万人の死亡をもたらす結核をワクチン開発によって制御する
- 想定される実用化の時期 2026年頃

- シーズの内容
 - ・ 新規CpG-DNAアジュバントG9.1
 - ・ 新規結核菌抗原MDP1

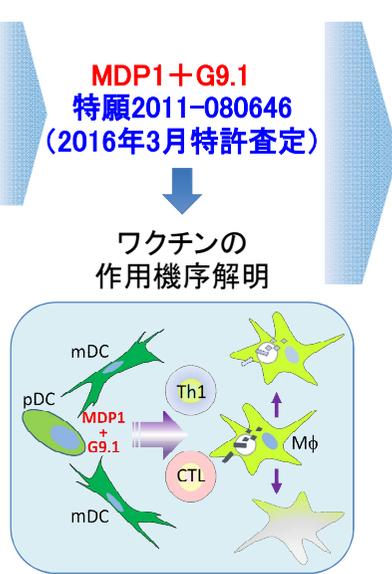
- プロジェクトリーダー
日本ビーシージー製造株式会社 山本 三郎
- 実施機関
新潟大学、福井大学
国立感染症研究所
日本ビーシージー製造株式会社
- 実施期間
平成26年12月～平成30年11月

■ 研究開発のポイント 潜在性結核感染者のT細胞が認識する主要な新規結核菌抗原MDP1と天然型の新規DNAアジュバントG9.1のコンビネーションによりブースター結核ワクチンを開発する。当該ワクチンの結核免疫誘導機序の解明並びにモルモットにおける効果の検証実験を行い、霊長類での抗結核効果を確認することにより製剤化を目指す。

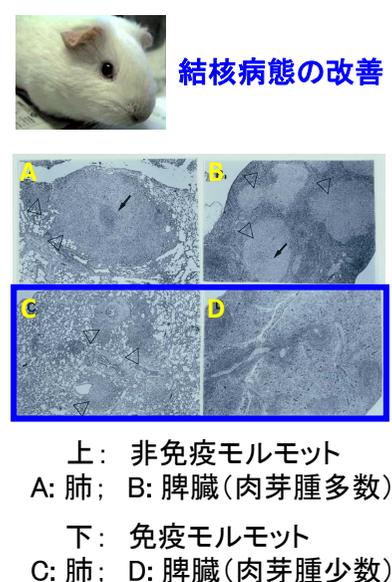
① 結核菌抗原MDP1を誘導発現する組換え菌作成とワクチン抗原の精製



② アジュバントG9.1とのコンビネーションワクチン



③ モルモットにおけるワクチン効果の検証



④ 霊長類での効果確認



⑤ ワクチンの製剤化

